

茂木敏充衆議院議員との対談 第4回

全4回

衆議院議員 茂木敏充 氏

開倫塾塾長 林明夫

林： お早うございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も開倫塾の時間をお聴き頂きましてありがとうございます。今日3月1日は、「開倫塾の時間」は始まって22年目になりますので、よろしく願い致します。今日の「開倫塾の時間」は、第4回目とし衆議院議員、また衆議院の厚生労働委員長にご就任になさいました、茂木敏充先生をお招きしてお話をお伺いしたいと思います。先生、宜しく願い致します。

茂木： 宜しく願い致します。今日から3月ですね。もう春ですね。

林： はい。宜しく願い致します。今日はですね、国政の状況とか年金問題、社会保険改革についてお話を伺っていますけれども、その最終回としてですね、これからの社会保障制度政策について茂木敏充先生からお話を伺いたいと思います。宜しく願い致します。

茂木： はい。

林： 厚生労働の分野は、医療と、介護とか福祉、年金と非常に多岐にわたりますが、今後の焦点はズバリ、何でしょうか。

茂木： 今、林さんの方からもありましたように、厚生労働 医療・介護・福祉・年金・・・こういった社会保障全般、さらには、先日もお話ししましたが、公衆衛生で例の餃子の中毒問題であったりとか、そしてまた人口問題、さらには若者のニート・フリーター対策、労働問題。本当に幅広いわけですが、社会保障 この分野だけをとってもですね、それこそ何時間もかけてすると、そうでなければ全部をカバー出来ない、こういう広い分野なんですけど、一言で言いますと、やはり日本ですね、少子高齢化というのが欧米の3倍のスピードで進んでいる、とこの3倍のスピードに対して制度の改革というのが追いついていないんですよ。これまでの社会保障制度をですね、少子高齢化の流れのなかでどう組み立てなおしていくかとこれが最大の問題だと、こんな風に思っています。同時に少子化、これが進行しているわけで、これを1日も早く止めなければ、歯止めをかけなければいけない、とこんな風に思っています、例えば高齢化で申し上げますと、日本の社会保障費 毎年ですね、大幅な増大というのを続けていまして、現在国の予算が89兆円くらいなのですが、これに対して社会保障費は90兆円を超えると、こういう形になっています。その一方で進む少子化について言いますとですね、このまま少子化が進みますと、これから10年先だけでもですね、労働人口が410万人不足してしまう。こういう深刻な問題ですから、少子高齢化にどう対応するかこれが一言でいいますと、一番大きな課題だと思っています。

林： 医療費だけでも30兆円かかっているとお聞きしますけれども、茂木敏充先生から見てです

ね、これからの医療制度はどんな風にしたら良いのでしょうか。これをお伺いしたいのですが。

茂木： ラジオだとなかなか形まで見えないのですが、林さんも最近随分ダイエットされて痩せられたようですが、最近「メタボリックシンドローム」とこういう言葉をよく聞くと思いますが、何しろ生活習慣病の患者というのが急増しておりまして、病気にかかってから治す、ということだと相当医療費もかさんでしまう。こういうことでいかに病気を予防するか、予防の重視というのが1つの大きなポイントだと思っております、これによって医療費も相当削減が出来るわけです。それともう1つ、林さんが医療費が全体で30兆円、こういうお話をしましたが、正確な数字なんですね。その中で誰か1番医療費がかかっているかと言いますと、実に30兆円の6割の18兆円が高齢者医療なんですよ。ですから、これからはやはり、現役世代と高齢者世代の負担の公平化という課題にも取り組んでいかなければなりません。このためには、今年から高齢者医療制度、という現役世代とはまた違う、高齢者のですね、医療制度がスタートするわけです。ただ、高齢者の方にとって、急激な負担増になる、とこういうことでは困ってしまいますから、激変緩和措置 これも取っていかなければならない。こういうことでなかなか頭の痛い問題だな、こんな風に思っています。また、医療の分野では、最近、特に地方です、医師不足と、こういう問題が言われて深刻化しております。また、分野別に見ましても、産科のお医者さん、小児科のお医者さん、これが不足しているわけでありまして。本年度、平成20年度の予算では、この医師不足に対応するために全年比、7割増の160億円の予算を付けてこの対応にあたっています。

林： そうですよね。その一方で、少子化という問題もありますが、茂木敏充先生から見て、この少子化の解決策はどんな風にお考えですか。

茂木： これはヨーロッパの国もですね、日本より早い段階で少子化に直面しておりまして、やはりこれを改善するというか、対応するのに10年、20年、そういう長い期間かかっておりまして、なかなかすぐに効く特効薬というのは無いんだと思います。ただ、大きく3つの対策というのは考えられます。1つは子育ての家族。色んな意味での負担が多いですから、そこに対する現金の給付。2つ目には、仕事と家庭の調和が取れるよう、例えば育児休暇など様々な制度を整えていくこと。3つ目には、夜間・休日の保育など、保育環境の整備を図っていくことです。このうち、欧米の経験からも見ましても、家庭への現金給付よりですね、保育環境の整備の方が、大きな成果を挙げているわけですので、この面の対策を大幅に充実していく必要がある、こんな風に思っております。

林： 茂木敏充先生がよくご存知の海外との比較ではこの点はどうでしょうか。

茂木： 先ほども申し上げたように、少子化をすでに乗り越えた、スウェーデンなどの北欧諸国、それから最近、非常に成果を上げています、フランスの例。これを見ましても、相当な対策をしています。例えば、日本の児童・家庭対策の予算が昨年度で4兆3300億円なのに対して、フランスの家族政策 これはわが国に人口に置き換えてみますと、10兆6000億円使っている、2倍以上の費用を使っているということがありまして、もちろん財源の問題もあるのですが、児童・家庭対策というのは一層充実していく、とこういう必要があると思っております。

林： 茂木敏充先生は、東京大学をご卒業になった後、ハーバード大学のケネディスクールという世界でも一番難しい行政大学院で福祉なども勉強なさったと、お聞きしたのですが。どうだったのでしょうか。

茂木： なかなか・・・それぞれの分野ごとに・・・とくにアメリカの場合は、色んな人種の方がいますので、対策も大変なのですが、何にしてもきめ細かくしていくこと、継続していくこと、こういうことが必要だと思ってまして、少子化対策についても、高齢化対策についても、確かに特效薬はありませんけれども、最重要課題だ、ということですね、これから集中的に取り組む、この一言に尽きると思います。

林： 有難うございました。今日はですね、4回にわたって衆議院議員であり、また衆議院厚生労働委員長にご就任なさいました、茂木敏充先生にお話をお伺いしました。本当先生、長いこと有難うございました。ご活躍を心からお祈り申し上げます。有難うございました。

茂木： こちらこそ有難うございました。あっという間の1ヶ月でしたね。

林： そうですね。

茂木： 有難うございます。